

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>. 理念に基づく運営</b></p>			
<p><b>1. 理念と共有</b></p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・その人らしさを支えるための理念を話し合いによって作りあげている。</p>	<p>・地域の中で暮らすという視点を持つよう、理念の見直しを行う。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・毎朝、職員全員で理念の唱和を行っている。その実現に向けて職員一人一人が努力している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>・運営理念を家族や地域に理解してもらえる取り組みは不足している。</p>	<p>・毎月発行しているさくら通信に運営理念を記載する。</p>
<p><b>2. 地域との支えあい</b></p>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>・管理者や職員が声をかけているのは、近隣の有料老人ホームの範囲に限られている。  ・事業所は、近隣の有料福祉センター主催の行事参加やねぶた運行、地元商店との連携などの形で地域活動を行っている。  ・地域の認知症普及活動は行っていない。</p>	<p>・高杉地区の民生委員を通じ、地域住民との交流を図る機会を増やす。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・運営推進会議の中では、評価への取り組みについては、まだ話し合っていない。</p> <p>・日々のサービスの実際について報告した後、質疑応答ではなかなか意見が出ない。</p>	<p>・評価への取り組みを議題にする。</p> <p>・地域包括支援センター職員が会議に加わり、意見を出しやすい雰囲気になってきている。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・定期的に市の介護保険課、生活福祉課に足を運び、報告や情報交換を行っている。特に困難なケースの場合、担当部署と協議を行い、ケースワーカーと入居者が面談する場も設けている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・家族と疎遠になっている利用者が増えてきており、制度について学ぶ必要性が生じている。現状では学習する機会が十分とは言えない。</p>	<p>・研修会に参加する機会を設けたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・職場内の勉強会やOJTにより、職員の意識を高める努力をしている。</p> <p>・職員がストレスを抱え込まないよう、随時話し合いをしている。</p> <p>・利用者が発しているサインを見逃さないようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・異動があった場合、担当者同士の引き継ぎを十分行い、サービスが途切れることのないよう配慮している。また、新人が着任した場合、OJT表に基づき職員教育を一定期間行っている。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
17 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・各種研修への参加を推奨しているほか、テーマを決めて勉強会を開催している。また、書籍などを活用し、情報・スキル・知識の共有をはかっている。		
18 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他事業所とケースワークなどの機会に協働をはかる際、今後も接点を保てるよう努めている。 ・ただし、個別の事象をきっかけにする場合がほとんどで、事業所と事業所同士のつき合いが深いとは言えない。		・顔見知りの他事業所職員がホームを訪れることが時々あるので、そういう機会を増やし相互交流を図っていきたい。
19 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	・管理者が個別に悩みの相談に応じているが、ホームに理解のある第三者の存在が必要と感じられる。		・外部者と接する機会を増やし、同じ悩みを抱える者同士が話合えるようにしていきたい。
20 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・各職員の勤務態度、実績、努力を総合的に勘案し評価を行い、職員のやりがいのある職場作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		<p>・入居希望者から相談を受けた場合、必ずインテーク面接を行いニーズの明確化をはかり、解決への道すじを明らかにしている。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		<p>・利用相談を受けた後、本人宅にて実態調査を行い、最もふさわしいサービスは何かの見極めを行っている。その過程でケアマネージャーとの連携をはかっている。</p>
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		<p>・馴染みの生活用品の持ち込みを推奨し、在宅での生活を継続して行えるよう配慮している。家族や本人に嗜好、生活歴の聞き取りをし、その人らしい生活が送れるよう配慮している。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		<p>・利用者の気持ちに共感しつつ、時にはじっくりと傾聴し、共に生活していくパートナーとしての役割を果たしていくよう努力している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・職員の物の見方・考え方のみに沿ってサービスを行うのではなく、家族の考えや意向を尊重し、共に本人を支える関係を作る努力をしている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・複雑な経緯により本人と家族とが疎遠になっている場合においても、ホームが間に入ることにより関係が改善されていったケースがある。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・個々の希望により自宅や知人のいる場所へ直接出向く機会を設けている。先方の居場所が遠い場合も、電話や手紙などの便宜により交流を持ち続ける支援をしている。		
28 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・仲の良い者同士が共に過ごせるよう、テーブル席を工夫している。知人が少ない方については職員が仲立ちし、新しい人間関係が築けるよう配慮している。		
29 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・他事業所と連携を持ちつつ、退居後も馴染みの暮らしが途切れないよう情報提供を行い、今までと同様の信頼関係を保ち続けるよう心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>			
<p><b>1.一人ひとりの把握</b></p>			
30	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・随時本人に聞き取りをしながら、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。定期的に嗜好調査も行っている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入所前に詳細な実態調査を行い、把握している。入所後にわかったことは追加し本人像の理解に役立てている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>・利用者一人一人の生活パターンを24時間詳細に観察し、現状把握を行っている。個々の問題のみに目を向けるのではなく、全体的に据えるように努めている。</p>	
<p><b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・三ヶ月に一度あるいは状態に変化があった際、ケアカンファレンスを行い介護計画の原案を作成している。 ・今後は、ご家族や他職種の参加が望まれる。</p>	<p>・家族のカンファレンスへの参加を呼びかけていく。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・三ヶ月に一度あるいは退院後など心身の状態に変化があった場合、介護計画の見直しを行っている。 ・新規入所者については、おおむね入所二週間後に暫定的な介護計画を作成している。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・個別のケース記録に記入しているほか、特記事項は業務日誌に記載し、情報の共有をはかっている。その他、個別の介護計画に基づくケアプラン表、重点観察者に使用する経過観察表を活用している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・宿泊を希望する家族も出てきているが、現状ではご要望に添えていない。</p>		<p>・ホームに出来るところから地道に取り組んでいきたい。(休憩スペースの確保など)</p>
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>・身寄りのない方について民生委員の協力をあおいでいる。ボランティアの受け入れは歌の慰問などを中心に行っている。</p>		<p>・今後はホームの催し物に協力していただけるボランティアを受け入れていきたい。</p>
38	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>・以前利用していた事業所の友人に会いに行くなどの形で行っている。他事業所のサービス利用という形では行っていない。</p>		
39	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>・運営推進会議の場で、地域包括支援センターからご意見をいただくことはあるが、個々のケースについて具体的に協働したことはまだない。</p>		<p>・今後、連携を深めていき助力をいただく機会を持っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前に利用していた医療機関を引き続き利用出来るよう支援している。医療機関については、ホームの協力病院を含め、本人や家族の選択に基づき決定している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・協力病院の医師または主治医により、認知症ケアについての助言を頂いている。また、症状が悪化した場合、専門の病院に通院出来るよう支援している。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・医療連携加算に係る正看護師に利用者の健康管理について日常的に相談をしている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・利用者が入院した場合、数日おきに面会に出向き情報交換や入院生活の支援を行っている。また、ホームと病院との間でいつでも連携が取れるよう備えている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・状況の変化があった場合、ケアマネージャー、管理者、家族とで担当医を交えた話合いの場を設けている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・常時、医学的管理が必要になった場合、近隣の有料老人ホームにて訪問看護を利用出来るよう支援するなど、ターミナル期に際しての対応方法を整えている。 (急性期の医療処置が必要な場合は、医療機関への入院となると想定している。緩やかに重度化した場合には、本人や家族の意向を十分に把握しながら、グループホーム内で対応出来るように整備するよう検討準備している。)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・転居先に必要な情報提供を行い、馴染みの生活が継続出来るよう支援している。関係者同士の引き継ぎを行うほか、転居先にホーム職員が同行し不安の解消に努めている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員の声掛けが大きく、プライバシーを保てていないことがある。難聴の方が多く、つい大きな声で呼びかけをしてしまう。		・難聴の方に対しても、プライバシーが保てるよう配慮しコミュニケーションをとる。
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・入居者と共に笑い、喜び、共感し合うような雰囲気作りを心掛けている。また、着衣や買い物、その他の活動場面において自己決定、自己選択が出来るよう支援している。		
49 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入浴順、食事の時間や場所、その他の生活場面で個々の生活ペースに合わせた対応を心掛けている。外出希望があった場合は、可能な限り対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・希望者には行きつけの美容院への送迎を行っている。時々、近所の洋品店に来て頂き、好みの服を選んで購入して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の持てる力を勘案しながら、料理の味見、盛付け、食器洗いなどを利用者と共にやっている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・晩酌やたばこなどについては、時間や場所を決めて提供している。個々の利用者に希望を聞き、嗜好品の買い出しを行っている。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄ノートまたは排泄表を活用して個々のパターンを把握している。宿便にならないよう、飲水、運動、下剤の内服などの支援を行っている。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴順は個々の希望(お湯の温度、人間関係など)に沿ったものになっている。  ・ただし、曜日と時間帯についてはあらかじめ決めている。(個々に随時対応する時もある)		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・昼夜逆転にならないよう日中、活動的に過ごし夜間、良眠出来るよう支援している。不眠が解消されない場合、医師処方睡眠剤を処方したり昼寝の時間を設けたりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・朝の清掃、食器洗いなどの役割分担のほか、趣味の園芸、将棋、手工芸、音楽活動などを支援している。		・カラオケが好きな方のため、カラオケが出来る場所へお連れしたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・自己管理の可能な方には、お小遣いを居室に置いている。物盗られの訴えや入居者間のトラブルが発生しないよう、必要額を相談しながら決めている。</p>		
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・随時、外出支援を行っている。 〔 買い物、気晴らしのドライブ、外食、帰宅  願望時の対応、畑仕事、外気浴、散歩など 〕</p>		
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>・年間行事の中に観桜会や外食、ショッピングディがあるほか、随時、個々の希望に合わせて遠方にも出掛けている。</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・本人自らが行えるよう支援しているほか、代筆や代読、電話での用件の伝達なども行っている。特に、家族から差し入れが送られてきた場合、必ず電話で会話が出来るように支援している。</p>		
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>・居室で面会される場合、椅子とお茶をすすめ居心地良く過ごして頂けるよう配慮している。馴染みの人間関係は職員も把握しておき、いつでも快適に訪問していただけるよう心掛けている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・身体的(精神的)拘束は行わない。本人、他の入居者の安全上やむを得ない場合、他に方法がない場合は、家族の了解の元、目的や期間を明らかにして行うよう取り決めてある。</p>		<p>・転倒の恐れのある方についても、見守りによって拘束を行わずに済んでいる。今後も身体拘束を行わないよう取組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋を開けてまわる利用者へのクレームがあったため、希望者の居室には鍵を設置している。</li> <li>・職員の員数や時間帯によっては玄関を施錠している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰宅願望の強い入居者については、可能な限り個別外出を行う対応をし、その間施錠しなくてもよい状態を作っている。</li> <li>・施錠しない時間を増やしていきたい。</li> </ul>
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーや羞恥心へ配慮しながら、さりげなく様子観察している。</li> </ul>		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来るだけ現在あるホームの備品や調度品を活かしながら、危険対策をしている。ただし、刃物と薬品は利用者の手の届かない場所に置いている。</li> </ul>		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ別に勉強会を開いたり、OJTを実施したりしている。その時に得た知識を基にマニュアルを作成している。</li> </ul>		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療連携業務の看護師に指導を仰ぎながら定期的に行っている。</li> </ul>		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の避難訓練の際により効率よく安全に避難出来るよう、避難方法の見直しをしている。</li> <li>・地域の人々への協力呼びかけは行えていない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方の理解と協力を得られるよう働きかけていきたい。</li> </ul>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症のマニュアルを作成し、予防に努めている。</li> <li>・特に本年ノロウィルスの流行があったため、食器やタオルの消毒は継続して行っている。</li> </ul>		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理用具は使用の度、消毒を行っている。</li> <li>・食材料は、調理を行うまで冷蔵庫に保管しており、期限が過ぎたものは処分している。</li> <li>・利用者、職員を含め調理時手指の消毒を行っている。</li> </ul>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の周囲に遊歩道を設け、その付近には野菜や草花を植えている。</li> <li>・玄関には、花瓶などの飾り付けをし、家庭の玄関に近づけるための工夫をしている。</li> </ul>		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブルに花を飾ったり、テラス前の畑に季節の野菜や草花を植えるなど季節感を演出している。出来るだけ外気や自然光を取り入れて居心地の良い空間になるよう心掛けている。</li> </ul>		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気のあった者同士がほかの利用者に気兼ねなく談話出来るスペースの確保に苦慮している。現状では弱者が過干渉を受けやすく、職員が間に入る必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・すみ分けるための空間の確保が必要である。</li> </ul>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・馴染みの暮らしがホームでも続けられるよう、使い慣れた物品の持ち込みを推奨している。</p>		<p>・可能であれば、タンスや寝具などの持ち込みも進めていきたい。</p>
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>・常に新鮮な空気になるよう換気を行っている。排泄後も臭気が残らないよう消臭処理をしている。温度計と湿度計を活用し、入居者が過ごし易い温湿度を保つよう配慮している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・廊下やトイレには介助バーが設置され、玄関は段差のない構造になっている。</p> <p>・身障者用のトイレが1つのみのため混み合うことがある。</p>		<p>・車椅子の利用者が快適に排泄出来る環境作りに取り組みたい。</p>
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>・トイレや居室には目印を設置し、なるべく自立した生活が送れるよう工夫している。</p> <p>・ホールに大きなカレンダーを設置し、日付を意識して生活出来るよう工夫している。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>・現状では食事を行うホールがディルームを兼ねており、グループワークやレクリレーションはそこで行われることが多い。</p>		<p>・居室以外で個別の趣味活動が楽しめるよう、室内で気兼ねなく過ごせる空間がホールの他にあればよい。現在、検討中である。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 利用者の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・グループホームさくらは、豊かな自然に囲まれており、落ち着いて生活出来る恵まれた環境を持っています。その長所を活かし、それぞれの利用者が笑顔で仲良く、それぞれの持てる力を発揮しながら生活出来るよう、私たち職員は努力しています。